

発行：安全な生活を願う市民の集い (Tel/Fax : 042-725-2545)

脱原発を

国民投票で明確にしよう！

福島原発事故から九か月。今、全国各地で、脱原発を目指す取り組みが拡大しています。個々の原発を廃炉にする運動を盛り上げると同時に、最終的には、脱原発を国全体の意思として法制化する国民投票の実現が必要です。

イタリアでは、この六月中旬に原発再開の是非を問う国民投票を行い、94%の反対を受けて政府は原発推進を断念しました。スイスでは、03年に国民投票で脱原発を決定し、既存原発の廃炉を実行中です。他のEU諸国も今、原発への意思決定を迫られています。

一国の国策を、国の主権者である国民が直接投票によって決める方法が「国民投票」という形です。日本は今、国家の存亡を賭けて脱原発の意思を表明し、再生可能エネルギー政策を掲げて大きく飛躍する時です。その意思を、国民投票によって明確に示す時です。

国民投票を実現するには、まず、私達国民から国会に対して「国民投票をしたい。その準備を整えてほしい」という「請願」をしなければなりません。今、その請願のための署名活動が、全国で進められています。駅頭などで見かけましたら、是非、ご協力下さい。

「頑張ろう！ さようなら原発 1000万署名」12・10集会

●日時：12月10日(土)・13:15～オープニングコンサート・13:30～集会
●場所：日比谷公園・野外音楽堂●集会後、日比谷公園から東電本社前を
経由し東京駅までデモをします。手製のプラカードなどご持参下さい。

署名は2012. 2. 28まで続けられます。

呼びかけ人：大江健三郎・他8氏(問い合わせ先 Tel:03-5289-8224・<http://sayonara-nukes.org>)



熱く！力強く！

脱原発の訴え

十一月二十三日。「脱原発をめざす女たちの会」のキックオフ集会在都内で開かれました。呼びかけ人は、福島瑞穂、加藤登紀子、香山リカ、鎌仲ひとみ、雨宮処凛、羽田澄子(敬称略)など女性の著名人多数。全国から駆けつけた高校生から高齢者までの四十三名が、壇上から一人三分のメッセージをリレーし、約四百人の聴衆に脱原発を訴えました。

最初のアピールは制服姿の初々しい高校生。「私が将来子供を産むとき、本当に大丈夫かどうか不安です。もしも何かあったら、私はその子供に何と云って謝ればいいのか——聴衆は心が締め付けられたと思います。福井県で『もんじゅ』の反対運動を三十六年間続けている女性は、「原発は国策だというのが、生命を脅かす国策があつてはならない」と。大阪からの女性は、「なんで、みんな、そんなに呑気やねん！原発事故はもう二度と起きたらあかんだ。廃炉に向けて頑張ろう！」と訴えました。

生命を育む女性ならではの感性も豊かに、強く、熱く、スピーチは続きました。最後に八十一歳の吉武輝子さんが、「原発は男性社会の発想。これまで男性は何でもやりっぱなしで、いつも女性が後始末をしてきた。しかし原発は後始末が不可能。こんなものを子孫に残してはいけない！私達は、原発を無くし安全で平和な社会を後世に引き継ぐ責任がある。」と明晰な言葉で締めくくりました。

今後、会では、来年三月十一日(日)に福島現地で第一回全国大会開催、四月七日、六月二日に都内で講演会などを開く予定があります。詳細が分かり次第、本紙でも随時お伝えします。

ツイッター有志による脱原発デモ《第7回＝本年最後》

12月17日(土) 13:30~/ 渋谷・代々木公園ケヤキ並木南側に集合

Twitterで集まった個人有志による脱原発デモです。原発を止めたい人は誰でも参加できます。プラカードや太鼓などは各自でご持参下さい。【<http://twitnonukes.blogspot.com/> 及び、@TwitNoNukes】

【後記】私達は、放射能の心配がない安全安心な生活環境を取り戻したいと願う者のグループです。

毎月1・11・21日にこのニュースをお届けします。Faxにて集会情報のご投稿をお願いします。